

議会では委員会条例に基づいて、総務・経済建設・厚生文教の決算（9月）の審査をはじめ、それぞれが所管する事務の調査地方創生に向けて、各常任委員会の視点から諸課題に取り組み

3常任委員会を設置しています。議員はいずれかの委員会に所属し、予算（3月）を行なっています。今回は、改めて常任委員会の役割や活動をクローズアップします。

さらなる防災・減災への取り組みを



行政区単位での自主防災組織率は64%。自助・共助の強化で激甚化する自然災害等への備えを。

住民参画・地域コミュニティの活性化を



自治に参加する具体的な仕組みづくりと、時代や地域性に合ったコミュニティの再構築に向けた取り組みを。

総務常任委員会では

休耕地の解消につながる農業支援を



可能性を秘めた不耕作農地の再活用を。また、就農支援の充実を。

観光客の増加を



細川紙がユネスコ無形文化遺産に登録されて2年。微増する来町者に対して「おもてなし」の充実を。また、周辺の環境整備で、にぎわい創出を。

経済建設常任委員会では

成果の見える教育を



夢がかなう素地をつくる教育。また、お金のかからない子育て環境・仕組みづくりを。

子どもがたくさんいる町に



人口ビジョンでは、4年後には3000人、14年後には7500人が減少と予測（平成26年、町の出生率は0.92）。既婚者増、結婚・出産・子育ての一貫した相談体制の充実を。

厚生文教常任委員会では

今年度取り組む調査研究の課題

視察をふまえての 委員会調査報告

調査テーマ

地域の特色を生かした総合的なまちづくり

静岡県静岡市・長泉町・小山町を視察
（3常任委員会での合同視察）

平成27年11月16日～17日



静岡市このはなアリーナ（経済建設常任委員会） 地場産材を使った集成材の活用

草薙総合運動場リニューアルの一環で改築された体育館。コンセプトは「木に包まれる体育館」で、日本三大人工美林である天竜杉を贅沢に使用。森林資源の活用に向けた県産材の需要と供給の一体的な創造に取り組み、木材の増産を目指している。



長泉町（厚生文教常任委員会） ママラッチの立ち上げ経緯と活動状況

子育て支援の一環とするタウンセールス事業で、子育て中のママライターが町のさまざまな情報を発信。事業を通じて、子育て情報の共有や住民交流の促進・商業や観光のPRとして、町の活性化につながっている。女性独自の視点・観点からの発信は効果大。

小山町（総務常任委員会） 内陸フロンティアの取り組み

静岡県が推進する「ふじのくに防災・減災、地域成長モデル総合特区」の指定を受けた先導的モデル。発災が懸念されている南海トラフ地震等の有事に備えて、現在は沿岸部に集中するさまざまな機能を内陸部に分散し、防災・減災と地域の成長を両立する取り組み。

それぞれ事業展開はさまざまであるが、苦慮しながらも地域の特性に即した効果的な取り組みの状況が確認できた。内容は多岐にわたり違いがあるものの、地域の特色を生かすために、常に前向きな探究心と推進力を備え、計画を実現に向けた姿勢があらわれていた。先進地の取り組みを十分精査し、当町においても、他に類を見ない特色あるまちづくりを希望するものである。